

架け橋期カリキュラム

※子どもとは…さまざまな支援や配慮を要する
(特別支援教育・外国にルーツをもつなど)
子どもを含むすべての子どもをいう

共通の視点		アプローチ期 ～子どもがどのように育つかを見据えて～		スタート期 ～子どもがどのように育ってきたかを踏まえて～		
		① 5歳児 4月～9月	② 5歳児 10月～3月	③ 1年生 4月	④ 1年生 5月～9月	⑤ 1年生 10月～3月
期待する子ども像 A		① 日常生活の中で、さまざまな方法でコミュニケーションをとり、他者と関わり合う。 ② 基本的な生活習慣を身に付け、自分で考えて行動する。 ③ 身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。	① 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。 ② 自分たちで生活の場を整え、1日の流れを意識し、見通しをもって意欲的に行動する。 ③ 小学校生活を身近に感じ、就学への期待が高まる。	① 進級した喜びを感じ、新しい出会いを楽しむ。 ② 先生やクラスの友達の名前を覚えるなど先生や友達のことを知り、親しみの気持ちをもつ。 ③ 学年での活動や他学年との関わりを通して、困った時には誰かに相談しても大丈夫と思える。	① 先生や友達などのつながりの中で一人ひとりが安心感をもって過ごす。 ② 先生や親しい友達に自分の考えたことや思いを伝える。 ③ 学校生活のしくみやルールが分かるとともに、学習に意欲や関心をもち、自ら関わろうとする。	① 自信や見通しをもって意欲的に学校生活を送ろうとする。 ② 自分の思いや感じたことを表現し、相手の意見や考えを聞こうとする。 ③ 分からないことや関心をもったことを自分たちで調べたり、伝え合い考えを深めたりする。
遊びや学びのプロセス ★プロセスを踏まえて配慮すること		学びの芽生え		自覚的な学び		
園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科などの単元構成など ★通年行う活動		★散歩 ★ごっこ遊び ★楽器遊び ★色水遊び ★砂場遊び ★異年齢交流(年下の友達との関わり) ★当番活動 ★グループ活動 ★掃除 ★栽培活動 ●公共交通機関の利用 ●園外保育 ●春夏の草花や生き物に触れる・みつける ●水遊び	●芋掘り ●秋の自然物遊び ●作品展 ●劇遊び ●正月遊び ●郵便ごっこ ●もちつき ●大掃除 ●お別れ会 ●氷づくり ●秋冬の草花や生き物に触れる・みつける ●小学校見学	●自己紹介 ●遊具の使い方を教えてもらう ●給食開始 ●学校探検 ●春をみつけよう	●アサガオ栽培 ●生き物の飼育	●芋掘り ●秋をみつけよう ●たねができたよ リースをつくろう ●秋祭り ●新1年生を迎える会準備
指導上の配慮事項	先生の関わり B	① 自分なりの目的をもって取り組んでいる姿を認め、自信や意欲がもてるようにする。 ② 自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切にし、自然の面白さや不思議さが感じられるようにする。 ③ ごっこ遊びなどでは、子ども自身が体験したことを引き出し、それぞれの役割について話し合い、進んで参加できるようにする。 ④ 子どもが話す時(伝えようとする時)には、聞いてもらう喜び、伝える喜びが感じられるようにする。 ⑤ 一人ひとりが大切にされる中で、人に対する信頼感や個性を互いに認め合う気持ちを育む。 ⑥ 見立てる、イメージを膨らませる遊びを楽しめるようにしたり、その思いに共感したりする。 ⑦ さまざまな支援や配慮を要する子どもについては、個々の課題などを踏まえつつ、他の子どもとつながり、安心して過ごせるようにする。	① 遊びの中で、それぞれが思いを伝え、自分たちで見通しをもちながら進めたり、解決していけるような機会をもったり、援助を心がけたりする。 ② 子どもが工夫してつくったり、かいたりする姿や豊かな発想を認め、共感していく。 ③ 好きなことに集中したり、没頭できる時間を保障しつつ集団で活動したり、話を聞く場面を取り入れたりしていく。 ④ 就学への不安に寄り添いながら、一人ひとりの育ちやがんばりを認め、励まし、自信をもって就学を迎えられるようにする。 ⑤ 小学校見学をしたり、入学後の生活について話し合ったりして、入学を楽しみに待つ気持ちを育てる。	① 「ほぐす」「ひらく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいくことを意識する。 ② 入学当初は、不安を感じがちなので、笑顔で応え、声をかけるなど、子どもとの信頼関係を築くことを心がける。 ③ 園で経験してきたことなどを十分に認め、子どもが発表する機会をもつ中で、子ども自身が安心して活動に取り組むとともに、自覚的な学びにつながるようにする。 ④ 文字や言葉の理解に個人差があることを踏まえ、視覚支援とともに丁寧な言葉がけや関わりを大切にしながら、安心して活動に取り組めるようにする。 ⑤ 特に初めての経験をする場面では、いろいろな教員が関わり、一人ひとりの子どもにきめ細やかに対応できるようにする。 ⑥ 子どもの集中力や理解面から、短く、具体的に話すよう心がける。(1指示1動作で活動できるよう意識する) ⑦ いろいろな支援や配慮を要する子どもについては、個々の課題などを踏まえつつ、それまでのつながりや育ちを土台とし、子ども同士の相互理解を促し、安心して過ごせるようにする。	① 幼児期に学んだことを問いかけ、引き出しながら、経験したことを踏まえて、同じ部分や相違点に気付くように言葉をかける。 ② 必要に応じて、簡単な手遊びやゲームなどを取り入れてから授業を始め、学習に意欲的に取り組めるようにする。 ③ 子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。 ④ 日々の活動を通して、自分や友達のように気付けるような機会をもち、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、互いに認め合えるようにする。 ⑤ 見立てる、イメージを膨らませる活動を取り入れたら、その思いに共感したり、他児に広げたりする。	① 学習や生活のさまざまな場面で、幼児期やそれまでに培った力を発揮できるような活動を取り入れ、自信をもったり、さらに伸ばしたりできるようにする。 ② 友達と一緒に考えたり、協力したりできる活動を取り入れ、できるようになったという喜びを感じ、進んで学習に取り組めるようにする。 ③ 友達といろいろな考えを出し合い、違いを受け入れて新しい考えを生み出せるよう関わる。
	子どもの学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり C	① 自分のしたい遊びが十分楽しめるように用具、遊具を準備しておく。 ② 遊びの中でつくりたくなるようないるる素材を用意したり、見本をおいたりして意欲をもってつくれるようにする。(種類別に分けたり並べたりして、使いやすいよう、片付けしやすいよう準備しておく。) ③ 楽しいことや好きなことに集中したり、没頭したりできる時間を確保する。 ④ 自然の中で遊ぶ機会をもつようにし、未知なものに触れて感動したり、不思議だなと思うような心が動く体験や、自然物を使ったいろいろな遊びが体験できるようにする。 ⑤ 遊びや生活の中で、数える、比べる、分類する、試すなどが自らできるような道具や用具を用意しておく。 ⑥ 興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。 ⑦ 日常生活で使用するマークや写真には文字や数字を併記し、その関係性に気付いたり、文字や数字に興味や関心がもてるようにする。 ⑧ 一人ひとりの子どもにとって、より分かりやすく、見通しをもった生活が送れるように、視覚教材などの環境を整える。	① 劇遊びなど協同的な活動を通して、共通の目的の実現に向けて試行錯誤や工夫、さまざまな気付きが生まれるようにする。また、友達とイメージを共有し、見通しをもって取り組むことを通して、やり遂げた喜びと満足感が味わえるようにする。 ② 自然事象や自然の変化に気付けるような機会をもち、不思議に思ったり、試したり調べたりする経験ができるような教材や用具を準備する。 ③ 時計、カレンダーなどを活用し、時間や日付の経過を意識して活動できるようにする。 ④ 文字や数量などへの興味に合わせ、言葉遊び(しりとりや言葉集めなど)や郵便ごっこなどが楽しめるように五十音表や文字スタンプ、鉛筆などを用意しておく。 ⑤ 活動を振り返り、互いの思いや気持ち、考えを知り、共有や共感ができる場や時間をもつ。 ⑥ 園生活最後の時期に充実感もてるように、修了式の準備や記念品づくりなど、子どもの意見を取り入れ、各自が思いを込めて取り組めるように計画する。 ⑦ 小学校を見学したり、小学校の先生の話の聞いたりする機会をもち、小学校入学への期待感と自覚を高める。	① 学年やグループなどの活動を取り入れ、親しい友達との関わりを軸に子ども同士の人間関係が広がるようにする。 ② 幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。(簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームを取り入れる) ③ 環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめながら、子どもたちができることや経験していることを生かした授業を行う。 ④ モジュール学習(45分の授業時間にとらわれず、柔軟に学習時間を設定する学習方法)を取り入れ、子どもの実態に応じて徐々に45分の授業に慣れるようにする。 ⑤ 生活科を核とした総合的な指導を取り入れることで、子どもの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進める。 ⑥ すべての子どもが、安心して新しい環境に慣れることができるよう、就学前施設での工夫を生かしながら絵や写真などを使うなど、視覚教材などの環境を整える。	① 隣同士や班など少人数で話し合ったり発表したりする機会をもつ。 ② 子どもや学級の実態や発達を踏まえ、時間割や学習活動を工夫し、編成する。 ③ 情報量を精選し、安心して集中して学ぶことができるような環境を整える。(ユニバーサルデザインに配慮した環境、写真・絵・電子黒板などの視覚情報を適宜活用する) ④ 子どもの姿に合わせて、徐々に時計やチャイムを活用した生活を組み立てていく。 ⑤ 1日の生活や学習予定について自分で確認できるよう掲示物を用意する。 ⑥ すべての子どもにとって、より見通しをもった生活が送れるように、視覚教材などの環境を整える。	① 学習や生活などの場面で、いろいろな友達と協力し合えるよう、班や係での活動の機会を設ける。 ② 生活科を中心にした各教科において、子どもの姿に合わせた単元(科・関連など)を構成し、配列する。 ③ これから先の予定に期待をもち、自分で確認し、準備をしたり、行動したりできるように、予定表などを掲示しておく。 ④ 進級する自覚や期待がもてるような活動を設定する。(新1年生を迎える会など)
家庭や地域との連携		● 充実した園生活を過ごすことが、小学校の生活や学習につながることを保護者に伝える。 ● 友達関係の広がりや深まりから見られる子どもの様子などをクラスだよりなどで伝える。 ● 遊びを通した子どもの育ちを記録し、遊びや生活の中の「学びの芽生え」について家庭に知らせる。 ● 個人懇談などで、一人ひとりの育ちについて保護者と共通理解を図る。	● 就学に向けて、個人面談などで保護者とともに一人ひとりの育ちを確かめる。また、保護者の相談には丁寧に応じ、どのように引き継ぎを行うかなど、小学校入学までの見通しを伝える。 ● クラス懇談会などでは、先輩保護者に話を聞けるような場を用意する。 ● 特別な支援が必要な子どもについては、保護者の思いを受け止めながら、必要に応じて関係機関との引き継ぎを丁寧に行之い、安心して就学につなげられるようにする。	● 入学式や懇談会その他、連絡帳や学級だよりなどで学校生活や子どもの様子を伝え、保護者の安心感につながるようにする。 ● 特別な支援が必要な子どもについては、通っていた園と連携を図り、スムーズに学校生活がスタートできるようにする。	● 保護者がいつでも相談できる体制を整えていく。また、保護者、子どもの不安を取り除けるように、共感的、肯定的態度で寄り添う。 ● 家庭訪問や個人懇談を通して、一人ひとりの子どもについて、その困り感や成長について家庭と共有し、必要に応じて関係機関と連携を図る。	● 進級するにあたり、保護者と成長を喜び合うとともに、不安なことをいつでも相談できるようにしておく。